

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・8月号・付録
2010年8月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年6月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521 / FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・隈部紀生

審議の概要は次の通り。
第1号議案(議長の選任)
出席正会員の中村美子さんを選任し、議事の進行をお願いした。
第2号議案(2009年度事業報告)
総務、出版編集、選奨表彰、企画開催、マイベストTV賞の5つ



右から音理事長、議長を務める中村美子さん、橋本新事務理事

2010年度総会開催 音理事長はじめ新期役員承認 事業報告、決算、事業計画、予算承認

◆NPO法人放送批評懇談会 第6回通常総会報告

6月20日(日)NPO法人放送批評懇談会の第6回(2010年度)通常総会を東京西新宿のスパルビル・レガシイホールで開催した。午後2時45分の開会時の出席者は30人(開会後若干増加)、委任状提出者は80人で合わせて110人となり、当会正会員186人の2分の1を上回り、総会は成立した。

の事業ごとに委員長、担当者から報告があり、拍手で承認された。
第3号議案(2009年度収支決算)
事務局長が報告し、田代監事から監査の結果適正と認めるといふ報告があつて承認された。

第4号議案(第6期、7期役員) 定款14条1項にしたがつて、理事会準備会で作成された第6期、7期の理事候補者23人が提案され、賛成多数で承認された。ここで総会を一時中断して、新しく選任された理事による第1回理事会を開いて、互選、指名によって音理事長をはじめ、理事の役職を決めた。志賀信夫名誉会長は退任して名誉会員に、名誉会長は清水英夫氏、監事2人は再任をお願いすることとし、総会を再開して新役員が承認された。
*新役員は別掲の通り。
第5号議案(2010年度事業計画)
新任の各委員長、担当者が提案し、原案通り承認された。
第6号議案(2010年度収支予算)
事務局長が総額8560万円の予算案を説明、提案し、拍手で承認された。
この後総会の議事録に議長とともに署名する議事録署名人2人を選任して午後4時40分総会を終了した。

いま、思つこと

高村裕

テレビ製作の現場にADとして参加してから40年目を迎えました。ワイドショー以外のジャンルを体験しました。

いまその老兵テレビマンがつづく感じるのは、現場における製作技術あるいは技法の恐ろしいばかりの退化です。

メディアとして文化として生まれて以来テレビは自己変革してきました。先達は高い志と優れた製作技術・技法で素晴らしい番組を生み出してきたのです。ドラマにおいて俳優の迫真の演技を引き出す演出技術があり、ドキュメンタリーにおいては決定的なシャッターチャンスを見取る取材技法があるのです。それがガラガラと崩れ出していると感じているのは私だけでしょか。

政治家の演説を論評すべきニュースキャスターの言葉の貧しさも感じています。テレビは自らの文化性を捨てるつもりなのでしょうか。そんな思いを皆様と議論したく入会いたしました。宜しくお願い申し上げます。

新入正会員自己紹介

地方の正会員として役立ちたい

小原道雄

名古屋の民放に入社して33年。記者として東海三県を駆け回った後、海外特派員として冷戦終結直後の東欧やソ連、湾岸危機・湾岸戦争の東、民族紛争のユーゴスラビアなどの現場を取材しました。

この中で、民族主義を煽る政治家によるメディア支配や、野党系メディアへの暴力攻撃など、厳しいメディア状況も目の当たりにしました。

ユーゴ紛争では、私とカメラマンが取材中に銃撃を受けたことを契機に、日本のマスメディアがユーゴでの取材を一時自粛することになり、現場取材第一の記者として、悔しい思いも経験しました。

また、小泉政権当時、竹中総務大臣による「通信・放送融合」の動きを継続取材する中で、「本物」を徹底して追い求めなければ、放送に未来はないとの思いを一層強くしました。昨春秋、入会を認めていただいて、先日の総会に初めて参加した際、地方の正会員が少ないことを知りました。微力ですが、名古屋からお役に立ちたいと思っています。

☆ギャラクシー賞 マイベストTV賞☆

2010年6月度の投票も始まりました!

ギャラクシー賞マイベストTV賞2010年6月度作品の投票を開始します。正会員の皆さまは、添付した 正会員専用 投票用紙 でマイベストTV賞の投票にご参加ください。

リスト以外の作品を記入できる欄もあります。ご活用ください。ウェブまたは携帯サイトから参加の場合は、正会員専用のユーザ一名ID、パスワードを使って投票ページに入ってください。正会員の皆さまのご参加をお待ちしています!

投稿をお待ちしています!

会報「ほうこん」は正会員の皆さまの広場です。会の活動についてのご意見のほか、正会員の皆さまの主催するイベントの案内や報告などについて投稿をお待ちしております。事務局までお寄せください。投稿の字数は400字程度でお願いいたします。

Eメール(kondankai@houkon.jp)、ファクス(03-5379-5510)でお送りください。お待ちしております。

◆6月理事会報告

6月20日総会に先立って6月理事会を開催した。

◆総会議案の承認

総会に提案する議案について各事業担当の委員長、担当者から説明があり、一部字句を修正のうえ承認した。その際2009年度の収支差金に関連して一部を50周年記念事業引当金とすることにした。

◆出版編集委員会

「GALAC」8月号は第47回ギヤラクシー賞の詳報で、受賞者の寄稿などを掲載。表紙は板尾創路さん、9月号は放送法改正についての特集で、表紙は小池栄子さん。

◆正会員入会の承認

石原信和さん、岡田芳枝さん、ペ

リー萩野さん、小磯亮さん、小見野成一さん、近藤倫章さん、武田三千代さん、塚本茂さん、原きよさん、山本博史さん

◆正会員退会の確認

山口秀夫さん

◆理事会の日程

7月理事会は7月26日(月)午後6時30分から、当会事務局で。8月は休会、9月は7月理事会で日程を決める。

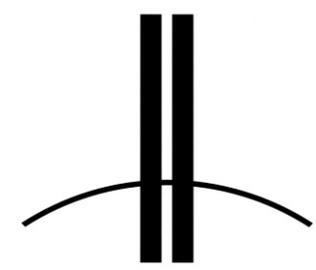
「出席」

音好宏、隈部紀生、上滝徹也、小田桐誠、藤田真文、石井彰、市村元、入江たのし、兼高聖雄、五井千鶴子、坂本衛、嶋田親一、滝野俊一、丹羽美之、橋本隆、藤久三木、山田健太

会議記録

「6月」

14日 (選奨)CM定例会部会
20日 理事会・第6回通常総会
24日 (選奨)ラジオ定例会部会
25日 出版編集委員会
28日 (選奨)テレビ月評会



第6期、第7期役員

名誉会長	清水英夫
理事長	音好宏
専務理事	橋本隆 (総務担当)
常務理事	上滝徹也 (選奨事業委員会 テレビ部門委員長)
	小田桐誠 (選奨事業委員長)
	藤田真文 (企画事業委員長)
理事	丹羽美之 (出版編集委員長)
	桜井聖子 (選奨事業委員会 ラジオ部門委員長)
	五井千鶴子 (選奨事業委員会 CM部門委員長)
	碓井広義 (選奨事業委員会 報道活動部門委員長)
	滝野俊一 (マイベストTV賞 プロジェクトリーダー)
	飯田みか
	石井 彰
	市村 元
	入江たのし
	兼高聖雄
	川喜田尚
	隈部紀生
	河野尚行
	坂本 衛
	嶋田親一
	稗田政憲
	山田健太
	中島好登
	田代勝彦
	原由美子
	志賀信夫

【退任】
名誉会長・志賀信夫、小林 毅、
理事・岩本太郎、堀木卓也、
藤久三木、堀尾羊一、
松尾羊一

新たなエンターテインメントを
目指して

吉田正樹

1983年にフジテレビに入社して以来、様々なバラエティ番組の企画・制作・演出を手掛けてきました。かつて私は、「放送批評」を受ける側の人間でした。しかし様々な観点で物事を見ることが、これからの時代に最も必要なアビリティだと考え始めたのです。

その異なった観点から見ると、新たなメディアを作ろうとしている人達を取り巻く環境が、未だに整備されていない事に気付きました。

私はその環境作りをしたいと感じ、放送批評懇談会を通じて、今までの私にはなかった放送を外側から見るという立場から、取り組みたいと考えております。

また私自身も新たなメディアの形態を渴望しているので、現在は吉田正樹事務所代表とワタナベエンターテインメント会長を務めさせて頂いております。

テレビというメディアの巨大な渦から逸脱し、その外側から新しいものを作りたいと思います。

新入正会員自己紹介

作り手たちの熱き思いを伝えたい！

影山貴彦

初めまして。同志社女子大学の影山貴彦と申します。専門は放送を中心としたメディア研究でして、特にエンターテインメントジャンルに属する番組に多大な興味がございます。前職は毎日放送にてテレビ・ラジオの番組の企画・制作業務におよそ16年従事しておりました。中でも思い入れ深く携わっておりましたのが、「MBSヤングタウン」という番組でありました。

今でも自らの人間関係のコアな部分は「ヤングタウン」において培われたといっても過言ではございません。何せラジオ・テレビがこの上なく好きでありまして、些か偏愛的な部分もあるかもしれません。

受け手たちの一部にある、批判先行型のネガティブな声に耳を傾けることも勿論大事ながら、作り手たちのポジティブな熱き思いをもっともつと社会全体に浸透させていくようなお手伝いを少しでもさせて頂ければ、と生意気なことを考えております。今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。

新入正会員自己紹介

「人びと」の視聴から
「自分自身」へ

渡辺久哲

TBSで25年間働き、この4月に上智大学へ移りました。在局中はマーケティング部というところにおりました。そこでは、自局の番組が「人びと」からどれだけ見られたか(「視聴率」と、なぜ「人びと」は見えてくれなかったのか(「見てもらうにはどうしたらよいか」)が最大のテーマでした。

そして気づいてみれば、調査や分析に追われるなか、番組そのものの中身について「自分自身で考える」ということを疎かにしたまま来てしまってきたように思います。

放送批評懇談会は、どれだけの人が見たかよりむしろ、「自分自身がさまざまな番組を見て思ったこと」をじっくり吟味する時間を与えてくれる所と思っております。
GALACの企画・編集では、調査やデータ面での貢献が私の任務と認識していますが、ここは種々のデータについての自己流の「読み」も含めて、ご協力させていただければと存じます。よろしく申し上げます。